

レンズ風車 台風でも発電



台風6号の影響下で発電を続けたレンズ風車=1日、うるま市勝連南風原(提供)

物流業の沖縄トータルロジスティクス(うるま市)が、台風6号の影響による1日の最大風速35・3メートルの環境下でも発電を続け、満充電時には自動制御で回転を止め稼働を維持した。同社の森田幸一郎社長は「停電への備

えとしても有効であることが実証できた。自治体向けの「レンズ風車」が、台風6号の影響による1日の最大風速35・3メートルの環境下でも発電を続けた。一般の電力系統に接続しておらず、満充電になると自動制御で発電を止めたが、羽根の回転数や発電機の温度などは上

トータルロジスティクス(うるま)

「停電への備え」自治体PRへ

限値を超えず異常はなかった。レンズ風車は九州大学発スタートアップのリアムウインド(福岡市)が開発。1台(3誌)で、蓄電池と組み合わせて4人家族の年間消費量(5500誌時)を賄うことができる。備蓄に限りがあるディーゼルや夜間起動できない太陽光に比べ、風力は昼夜発電を続けられる利点がある。

沖縄トータルロジスティクスが県内唯一の総代理店となり、おきなわフィナンシャルグループ(OFG)の地域商社みらいおきなわが販売を支援している。OFGが包括連携協定を締結している離島町村などへ導入を呼びかける。

(当山幸都)